

2025 年度 一般選抜前期日程 [経済学部] 小論文 (長文理解)
出題の意図と解答の傾向

問題 I

【出題の意図】

三浦展『再考 ファスト風土化する日本—変貌する地方と郊外の未来—』(光文社新書, 2023年)は、二十余年前に自身が提起した「ファスト風土」論、すなわち地方や大都市郊外のロードサイドに大型商業施設が立ち並ぶことで地域固有の歴史や文化が失われていくとする論について、再検討を行っている。本書の一章である轡田竜蔵「ファスト風土暮らしの若者論」では、コスパ(コストパフォーマンス)やタイパ(タイムパフォーマンス)といった規範が広まった現代においてファスト風土が広く受容されている論理や、生活の満足度や幸福度との関係を論じている。主な出題意図は、筆者の見解を本文から読み取り要約する力を確認すること、および地域の消費環境変化に対する認識や、消費行動に対する自省も踏まえた自身の見解を、論理的に記述する力を確認することである。

設問1は基本的な読解問題である。本文中に示されている、大型商業施設や100円ショップなどファスト風土の利用による価格と質のバランスのとれた(コスパのよい)消費と、地域の風土を反映したローカルな消費のいい所取り、という主張を読み取ることが求められている。

設問2は、読解による本文の要約を行うことができるか、その上で自身の見解を論理的に記述することができるかを試す複合型の問題である。コスパやタイパのニーズとファスト風土の受容との関係性について説明すること、受容による個人や社会にとってのメリット・デメリットをまとめること、そしてそれらを踏まえて自身の主張とその根拠を示すことが求められている。

【解答の傾向】

<設問1>

- ・概ね、2種類の消費行動のいい所取りという点を示せていた。また書き抜きを適切に行っていた。
- ・ただし、「ちょうどいい暮らし」の該当箇所ではなく、長文全体を要約しようとしている解答もみられた。
- ・キーワードは抽出できているが、文章構成が稚拙な解答も散見された。例えば2種類の消費行動について明確に区別した記述ができていないものがあった。
- ・この設問では例を挙げることを求められているにもかかわらず、具体性に乏しい解答や、本文に即していない解答が散見された。

<設問2>

- ・ファスト風土が受け入れられている理由として、タイパについてはほとんどの解答が言及していた一方、コスパへの言及(「コスパに結び付きインフラとして活用」など)は少なかった。また、コスパやタイパといったキーワードの提示のみにとどまり、それらがなぜファスト風土の受容につながったのか、文脈や意味の理解が浅く、説明が不十分な解答がみられた。
- ・メリットに関しては、単にコスパ、タイパと記載されており、受け入れられた理由と同一視し

ている解答が多く見受けられた。ファスト風土がもたらす社会への影響に言及しているものは少なかった。

- ・デメリットに関しては、本文中に明確な記述があったためか、概ね解答できていた。
- ・ファスト風土との接し方に関しては、本文中に記された「ファストとスローのギアチェンジ」あるいはそのバランス調整といった解答が目立ったが、欲をいえば、それが具体的にどのようなものなのかをイメージし解答してほしかった。またファストとスローを単に時間の使い方としてのみ捉えたものなど、消費行動のあり方に論を展開できていない解答が少なくなかった。

【その他】

- ・設問1・2に共通して、解答の構成力に差があり、論理的な構成ではなく、単にキーワードを並べただけの解答があった。抽象と具体を適切に組み合わせ、記述順序の整理、接続詞の適切な使用などに注意すべきである。
- ・本文中に記載がある漢字も含め、漢字の誤字が散見された。
例：若者→若物、風土→風度、低下→低化、コロナ禍→コロナ過
- ・助詞（てにをは）の漏れが散見された。
- ・口語的・俗語的な表現が散見された。
例：すごく、一択、刺さる